



印刷管理部 デジタル課 班長
板野 孝成 氏
「広色域の再現性や濃度の安定性に優れ、印刷品質が向上。前回データの活用でリポート案件の再現性も高まりました」



印刷管理部 デジタル課 課長
安井 徹 氏
「速乾性に優れたUV印刷機を導入したことで、加工工程への移行が容易になり、短納期対応が可能になりました」



ソリューション事業部 課長
永村 智哉 氏
「デジタルB2両面印刷、薄紙から厚紙、特殊原版まで対応する柔軟性といった特長が、当社の強みになっています」



営業企画部 課長
原野 良昭 氏
「小ロット、短納期、多品種の案件を安心して受けられるようになったことが、導入の大きな成果です」

た、損紙の削減や刷版レスなども大きなメリットです」と岡部社長は評価。コストが可視化されたことで、営業が適正な価格設定や案件選別をしやすくなり、案件ごとの利益率が向上した。

現場の変化と短納期対応力の向上

人材活用面にも大きな変化をもたらしました。「自社で色校正と同じ品質の印刷が可能になり、営業部門や現場では品質への意識が高まりました」と岡部社長。さらに、「従来は4色オフセット印刷機を2人で運用していましたが、インプレミアIS29sは操作性が向上したことで1人の運用が可能になりました。機長経験者には現場の指導を買ってもらい、現場全員のスキルアップにもつながっています」。安井課長も「作業工程が大幅に短縮され、特別な経験がなくとも短時間で機械の操作を習得できました」と話す。

短納期対応については、「以前は残業や人力での短納期対応が多かったのですが、機械の速乾性やセット時間の短縮によって、社員の負担を増やすことなく短納期を実現できるようになりました」と岡部社長。特に「ユーポ紙やフィルムなどの素材でもUV印刷機の速乾性によって乾燥時間を気にせず、迅速な対応が可能になりました」とメリットを挙げる。

インプレミアIS29sで複数の課題を解決

1932年に創業した株岡文館印刷所は、地元の銀行や地域の産業を印刷で支えてきた。同社の強みは、企画段階から用途に合わせた製品対応だ。パッケージ印刷、トムソン加工、貼り加工までワンストップでサービスを提供している。また、配達部門を有し、県内を対象に配送まで自社で担う体制も整えている。

インプレミアIS29s導入の背景には、既設オフセット印刷機の更新があった。



代表取締役社長
岡部 憲一郎 氏

「インプレミアIS29sは、私たちにとって“夢の実現”です。特にインク量やコストが一目で見えるようになったことは、革命的で大きな感動がありました」

岡山市で創業以来、地元銀行や地域産業の印刷物を手がける株式会社岡文館印刷所。中でも学生服メーカーとの取引を中心し、厚紙を使用したパッケージ印刷に強みを持つ。同社は2025年1月、既設オフセット印刷機の更新でB2サイズデジタル印刷機インプレミアIS29sを導入し、高品質印刷、短納期、小ロット案件への対応強化、コストの見える化に取り組んでいる。その導入の背景と効果について、岡部憲一郎社長、営業企画部課長の原野良昭氏、ソリューション事業部課長の永村智哉氏、印刷管理部デジタル課課長の安井徹氏、同課班長の板野孝成氏にお聞きした。

インプレミアIS29sで高品質印刷と短納期対応を両立 印刷コストの見える化による経営基盤の強化が進む

インプレミアIS29sで複数の課題を解決

「広色域の再現性や濃度の安定性に優れ、印刷品質が向上。前回データの活用でリポート案件の再現性も高まりました」

「速乾性に優れたUV印刷機を導入したことで、加工工程への移行が容易になり、短納期対応が可能になりました」

「デジタルB2両面印刷、薄紙から厚紙、特殊原版まで対応する柔軟性といった特長が、当社の強みになっています」

「小ロット、短納期、多品種の案件を安心して受けられるようになったことが、導入の大きな成果です」

た、「機械の老朽化や原材料高騰、人材不足などの影響で、社内で対応できない案件が増え、外注が増えていました」と岡部社長は説明。中国・社長、営業企画部の原野課長は「外注すると価格面のメリットが出せず、納期も余計にかかってしまいます」と導入前の課題を振り返る。

複数メーカーの機種を比較検討し、インプレミアIS29sを選んだ。「両面見当精度、咥えの部分や針の向きなど後工程を考慮した設計や、オペレーションの簡便さといった、印刷機メーカーならではの視点が、導入の決め手となりました。また、当社にはUV印刷機がなかったた

め、速乾性や原反への対応といった要素も短納期や特殊紙案件への対応力として重視しました」と岡部社長は説明。中国・四国エリアでの初導入となつた。

導入によって得られた最大の成果は、コストの見える化が実現したことだ。「従来のオフセット機では見えないコスト」が多く存在していました。使用インク量などのコストの見える化が進み、利益の有無が即座に把握できるようになつたことは特に大きな導入効果を感じています。ま

た、「機械の老朽化や原材料高騰、人材不足などの影響で、社内で対応できない案件が増え、外注が増えていました」と岡部社長は説明。中国・社長、営業企画部の原野課長は「外注すると価格面のメリットが出せず、納期も余計にかかってしまいます」と導入前の課題を振り返る。

複数メーカーの機種を比較検討し、インプレミアIS29sを選んだ。「両面見当精度、咥えの部分や針の向きなど後工程を考慮した設計や、オペレーションの簡便さといった、印刷機メーカーならではの視点が、導入の決め手となりました。また、当社にはUV印刷機がなかったた



インプレミアIS29sと岡文館印刷所の皆さん



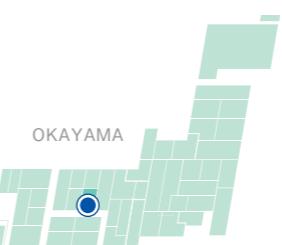
パッケージサンプルとSDGsの取り組み。



インプレミアIS29sを操作する板野班長。以前の機械では紙積みを担当していた。「トラブルが発生した際には、エラーコードや原因箇所が表示されるため、すぐに対応できる点がとても良いと感じています」



◀ インタビュー動画はこちら
<https://go.komori.com/op224/youtube/kobunkan/>



本社 / 岡山県岡山市中区長岡4-47
<https://www.kobunkan.jp/>
TEL / 086-278-9611